

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員一同地域密着型サービスを理解し、地域の協力の下、事業所独自の理念に基いたサービスを行っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に話し合い、日常生活の中で意識しながらケアに取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・玄関に入ると正面に掲示し、パンフレットに記載している。家族には、入居時また日々の取り組みの中で理念を理解して頂いていると思われる。・社協本体で出している広報「ふれあい」に掲載したり、それとは別に地域住民にはグループホーム安心住宅便りを配布している。	
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所の人達とは気軽に声を掛け合い立ち話を常日頃から行ったり、収穫した野菜を頂いたりしている。また、地域の子供たちは、休みになるとに訪れ遊んだり一緒におやつを摂ったりしてる。豪雪地帯の為冬期間は、地域住民の田園を借り雪投げの場所として使わせて頂いている。また、農繁期には、ホーム内の空き地を駐車場として自由に使ってもらっている。地域の宵宮に入居者の皆様と出かけたり、小学校の運動会を見学に行っている。入居者のプライバシーに十分配慮しながら、人材育成のための実習生の受け入れを積極的に行っている。	○ 地域の集会やホーム便りを活用しながら認知症の啓発に取り組んで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価を行ない、サービスの質の向上に努め、外部評価結果は、ミーティングで報告し改善しなければならない点については、検討し改善に取り組んでいる。		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設から現在に至るまでの状況を報告し、参加者からの質問、助言、要望を受け、必要に応じては上司と相談しながらサービス向上に活かしている。	○	自己評価・外部評価の結果については、今後の開催時に報告し意見交換を行っていきたいと考えている。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向け協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	集団指導以外にも必要に応じて相談したり、助言をいただきながら課題解決に取り組んでいる。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	すでに利用されている方がいるので多少なりとも理解はされていると思われる。また、必要性が考えられる方についても、関係者と検討し活用できるよう支援を図っている。		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に話し合いを持ち、日常的に使っている言葉使いや接し方に注意しながら対応するようにしている。まれにそのようなことが伺えられた時には、なぜ悪いのか理解を深め再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書を丁寧に行ない、その中でホームとして出来る事、出来ない事、また、状況・状態変化によつての退去等について説明を行い理解して頂いている。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの苦情が出た際には、速やかに改善に向けるよう取り組んでいる。また、解決が困難な場合には、苦情処理委員会を設置し利用できるようにしている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理に付いては、毎月預かり金の収支決算書を送付している。健康状態に付いては、通院時に状態変化があった場合に報告しそれに対する意見を伺っている。訪問時に行事等に写した写真を渡したり、訪問が出来ない家族には、一言添えて送付している。職員に移動等があった場合にも報告している。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何時でも対応出来る様に心がけている。また、苦情処理委員会を設置していることを明示している。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見を聞いたり、それ以外にでも意見があった場合には聞いて反映させている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	3:1の職員配置となっているため本部と連携し、必要に応じて確保できるよう普段から顔なじみになるために応援に来てもらっている。		
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が、顔馴染みとなる期間を設けスムーズに移行できるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では、その時々に応じて勉強会を開催し、他研修についても必要に応じて行っている。受講後は、内容を日々のケアに活かせるよう、全職員に周知している。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームで連絡会を設け2ヶ月に1回交流会を開催し、問題点を市町村や西北五地域認知症高齢者グループ協会へ意見として打診している。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	入居者の状況、状態に合わせてながら休憩を取るようになっている。また、業務日報や面談、職員同士で悩みを解消できるよう取り組んでいる。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則があり守られている。運営者も月1、2回訪問し利用者に声を掛けたり、職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行なっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の意見も大切にしながら、グループホームを選んだいきさつに対して家族と面談し直接話を聞く機会を設けニーズを把握するよう努めている。		
22	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族や担当ケアマネジャーを交えながら対応できることについては柔軟に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来てもらったり、やむを得ず、すぐ利用になった場合には、家族や担当ケアマネージャーに来てもらい、安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のその時々状態を理解し、得意分野で持っている力を十分発揮してもらうよう努めている。		
25	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の抱えている悩みを汲み取り、情報交換をしながら一緒に利用者を支える関係を作るよう努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に日々の利用者の様子を報告したり、電話や写真で伝えたり、家族がホームに来やすいよう努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用前から利用している美容院に行ったり、他施設に入居している夫に毎月家族と面会に出かけたり、お盆には墓参りに出かけたりしている。また、利用者がこれまで関わってきた人との交流が途切れないよう支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の仲の良し悪し等を把握し、持っている力を出し合い、孤立しないよう心がけて支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された利用者が何時でも訪れたり、必要に応じて家族の相談に応じる等継続的な関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとってどこで、どのように暮らすのが一番いいのか家族と検討している。また、利用者の思いを日々の中で声を掛け合い、把握すよう努めている。		
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される以前のサービス利用について把握し、必要に応じて家族・事業所等にプライバシーに配慮しながら情報収集に努めている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の1日の生活リズムを把握し、出来る事は担っていたき、その人の全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め全職員で意見交換やカンファレンスを行っている。利用者の方が、自分らしく暮らせるよう、出来ない部分を支援し出来る事は担っていただけるよう介護計画を作成している。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	取りあえずは、3ヶ月に1度の見直しを行い、利用者の状態変化においてはその都度見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに記入し、食事・水分量・排泄回数など身体的状況や生活の様子や本人の言葉等を記入し、勤務開始前に確認することを義務付けている。それ以外に必要な事に付いては、連絡ノートにて情報交換を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		○	今後必要に応じては検討すべき項目と思われる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や地域の駐在所の協力を得られるよう働きかけている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行政独自の理美容サービス等に関しては、グループホーム入居者には利用できないようになっている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護を利用している利用者は居る。	○	成年後見制度の利用の必要がある場合には、地域包括支援センターと連携し、支援を図りたいと思う。
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する医療機関を受診するようにしている。また、状態変化に伴い本人の了承の下、医療機関の変更を行いより良い治療が出来るよう支援している。受診結果は、利用者や家族との共有が図れるよう連絡を取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地元の総合病院の内科医が認知症の人の医療に熱心で、必要に応じて指示や助言をしてくれる。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の看護師と連携を取れる体制が確保されている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向けた支援体制について、家族も含め担当医と話し合いを行う体制が出来ている。入院時には、情報を医療機関に提供し、職員が頻繁に見舞うようにしたり、家族とも情報交換をしながら支援に結びつけている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時の対応について、利用者や家族、医療機関との話し合いを行い、意思統一を図っている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度度や終末期には対応していない(協力施設に移行したり協力病院への入院を依頼している)。		
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所に移った場合、アセスメントやケアプランを手渡し情報提供を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの折に、言葉遣い、声がけに配慮し年長者として敬いながら対応するよう伝えている。全職員は、個人情報保護法について概ね理解している。	
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声がけを行い、ろう者の人には口話や筆談にて伝えたり、表情を読み取ったりしながら、自分で決定することが出来るようにしている。嗜好品に付いても本人、家族からの情報等を得、把握に努めている。	
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは持っているものの、その時々状況に応じて柔軟に対応を図っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容院の訪問を行っているが、希望者には馴染みの美容院を利用できるよう支援を行っている。また、買い物、通院、地域散策時には自分で選んだ服装で出掛け、衣類等の乱れが見られた際には、さり気なくサポートしている。	
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好み、疾病や嫌いなもの等に配慮している。また、野菜の下ごしらえや味見をさせていただいたり、後片付けを一緒に行っている。食事は、3食とも利用者との会話を楽しみながら一緒に摂り、食べこぼしの際には、さり気なくサポートしている。買出しに出掛けられる利用者と一緒に出掛け、食べたい物や品定め、数量等の確認をしながら買っている。	
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好品を理解し、出来る限り嗜好品を取り入れて出すようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、本人の訴えがない場合には時間を見てトイレ誘導を行っている。また、尿意が無い方にも必ず便座に座っていただくことで排泄を促している。利用者1人ひとりの状態や、季節を考えながらリハビリパンツや尿取りの使用について全職員で話し合いをしている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の好みの温度に調整しながら、1人ひとりに合った入浴を行っている。入浴を拒否された場合には、声がけを工夫し再度促すようにしている。それでも拒否された場合には、強引には行わないようにし足浴を行っている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	必要に応じて、家族や担当医と相談しながら眠剤を服用している方も居る。寝付けない方には、ホットミルク等を提供するなど工夫しながら対応を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今まで培ってきた力を活かした役割を担っていただいている。男性の利用者は、日々の畑仕事を楽しみとして取り組んでいる。収穫した際には、本部に届けたり、食卓に上がった際には、特に感謝の言葉を伝えている。1つひとつの仕事の終了時には、常に感謝の言葉を伝えている。		
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安という声から小額のお金を持ち、自分の財布からお金を出す機会を作っている。家族よりお金を預かり、事業所が管理している方でも、外出時には自分で払えるよう家族と相談し小額を渡している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事前に伝えると興奮され落ち着きがなくなる為、出掛ける直前に伝え、出来る限り出掛ける機会を作っている。その際、身体状況を考慮し移動方法や移動距離に配慮して行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	他利用者と普段行けない所に連れて行くように努めている。また、お墓参りに行きたい利用者に対しては、支援を行っている。親族と出掛けたり、夫が他施設に入居されている利用者には家族と一緒に面会に訪れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望にて家族、友達に電話を掛けたい方には、人目を気にしないで使っていただいている。電話をかけられない方には、職員が繋いで話しをしていただいている。友達や家族からの電話を取り次ぎ会話をしていただいている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友達が気軽に来やすい雰囲気作りを心がけ、利用者の居室で居心地良く過せるよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を事業所内で実施し、理解を図っている。また、身体拘束は行なわないという姿勢で日々のケアに取り組んでいる。		
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、トイレ、居室に鈴を下げ利用者の居場所を把握できるようにしている。玄関や利用者が日常的に出入りする場所には鍵を掛けないようにしている。やむを得ず鍵を掛ける必要が出た際には、家族の同意を得ている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	トイレ、居室、ベッド(車椅子の方にナースコールの代わりに使用)に鈴を下げ利用者の様子が分かるよう工夫を行っている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことはしないで、保管すべきものは厳重に保管し、日常的に使用しているものであれば、利用者の状況に合わせながら注意を払って対応をしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者1人ひとりに伴うリスクを話し合い、その人にあった食事内容や事故を未然に防ぐ為の工夫をしている。万が一事故が発生した場合には、事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応のマニュアルは作成している。また、一部の職員は救急救命の研修を受講している。	○	応急手当や救急救命の訓練を行って行きたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。	○	消防署に協力を得て、消火器の使い方などの訓練を行って行きたい。
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、リスクは高くなるものの抑制せず、自由に持てる力を発揮していることで、生きがいを持って暮らしている様子を説明し理解してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックにてその日の状態観察を行うと共に、食欲、顔色等の変化を見落とさないよう全職員と共に共有している。変化や兆候があった場合には、協力病院に相談し必要に応じて受診し家族に連絡したり記録につけている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し個人ファイル、薬の保管箱に入れ職員が何時でも内容を把握できるようにしている。服薬時には、本人に手渡し服薬したかどうか確認をしている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量のチェック、繊維質の食材等の摂取や毎日のラジオ体操にて身体を動かすなど心がけている。1人ひとりの状態によっては、医師の指示にて下剤を服薬している方も居る。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行ない、1人ひとりの力に応じた支援を行っている。職員は事業所内の研修で、肺炎を予防するための技術を身に付けるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取状況を毎日チェック表に記録し、概ね把握している。季節の旬のものを取り入れたり、1人ひとりの嗜好を把握しそれを取り入れたりしている。献立や栄養状況等については、栄養士の資格を持っている職員が本部に居る為、3ヶ月に1回カロリー計算を行い助言、指導を得られる体制をとっている。		
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対して情報収集を行い、取り決めにこない、早期発見、早期対応に努めている。家族や本人の同意にてインフルエンザ予防接種を職員と共にやっている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルの使用と食器を拭いた後にアルコールを噴霧している。また、食前や食事に関することをを行う前には、必ずウエルパスにて手の消毒に努めている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	お絞りとふきん等は、毎食後に漂白し清潔を心がけている。冷蔵庫内の点検を行い、残り物については24時間で処分し、食材の残りの鮮度や状態を確認し、早めに使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には利用者が花壇を作って花を植えたり、玄関には季節の花を生けたりオブジェを飾ったり、明るい雰囲気になるよう心がけている。入り口には、手作りの看板を設置している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器を洗う音、ご飯の炊ける匂い、季節、節句のお菓子など五感に働きかける工夫をしている。誕生日やクリスマスのプレゼントをテレビの上や壁に飾っている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	喫煙場所として事務室と決めているが、今のところ利用者の中には喫煙する人はいない。廊下にベンチを置き中の良い人とふれあいを持ったり、1人で過したりしている。また、食堂でテレビを見ながら団欒している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から位牌を持参されているかたは、花を飾ったりお菓子を添えたり、家族や身近な人との写真を飾りふれあいを大切に1人ひとりが自分のスタイルに合わせた工夫をしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に気温、湿度を確認しカーテンを閉めたり換気扇を回したり、季節によっては窓を開けたりしながら、利用者の状態に合わせてホーム全体の温度を統一するよう心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や風呂場、トイレに手すりを設置し利用者の自立を意識した工夫をしている。また、洗濯物干しも個人で出来る人はその方の高さに合わせた物を設置し使ってもらっている。車椅子を準備し状態に合わせずでに使っていただいている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室、トイレ、風呂場など手作りの表示を貼り分かりやすいよう工夫をしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇には花、ホーム裏には畑のスペースを確保し、利用者が日常的に楽しんで活動できるようにしている。また、ホールからは畑や田園風景、自然の山々が広がり空気や景色を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・押し付けにならないように、生活の中で役割を持っていただいている。現状に向き合う姿勢、力が職員の環境が作られている。・筋力低下予防の為に毎日、ラジオ体操、手足の筋力体操を楽しみながら行っている。・既存施設が保育園であったことから、ホールが有り、年1回お世話になっている地域の方や家族を招待し、クリスマス会を開催している。・誕生日には、家族の方を招待し一緒にお祝いをしている（来れる方だけで強制はしていない）。